

光の教え

『日本は庶民一流、経済人一流、政治家二流』
と言われています。

これは他の国と逆ですね。日本はとてつもない偉人は生み出しにくいけれど、人としての総合的なレベルの平均点は他の国に比べてとても高いと思います。

なぜそんな素晴らしい 普通の人々が育つたのかというと、これはやはり、源信さん、法然さん、親鸞さんをはじめとする浄土教の教えが一般庶民に浸透し、定着したおかげであると思います。

このように、浄土の教えこそが日本民族の霊性の大切なバックボーンとなっているのに、それがどういう教えなのか、皆さん、意外にご存知ないようなので、今回は簡単に解説しておくことにしました。

扶香くさいといって敬遠するのではなく、自身の内にあつて無意識に底に沈んでいる良質のものを意識化させて、現在にいのちあるものとして復活させる。そして、過去の素晴らしい遺産の根っこと現在の自分を接続させる。このことはとても大切なことだと思います。

浄土教のご本尊は アミダ仏 です。

この 『アミダ』は、計量できない、計り知れない』という意味です。

では、アミダ仏の何が計量できないくらい大きくて多いのかというと、それは 『アミターユス』と 『アミターバ』なんだとお経に示されています。

はじめの 『アミターユス』は 無量の寿命 無量寿仏』という意味で、 『アミターバ』は、無量の光 無量光仏』という意味です。

つまり、アミダ仏は、無限の光であり、永遠の生命である仏様』なのですが、なぜ 限らない寿命を持ち、限りなく広がってゆく、

届かぬところが無い光を放つ仏』でなければならぬのでしょうか。

それは、アミダ仏はすべての人 特に弱い人 辛い人 暗い人 悲しい人などを救い とつて、いのちの本道 魂を成長、進化させてゆく道』に引きもどす仕事をなさっているからです。これがアミダ仏の 根本の願い』で、これを 本願』と言います 本願寺というお寺がありますね。

ですから、世界の隅っこや日陰に小さく縮こまって、うずくまっているような人にも光を届けて、その光でしっかり包みこんで、いのちが正常にもどるまで養い育てていかねばなりません。

ですから、自らが放つ光はどこまでもたとえ仏様から無限の距離はなれているという地獄の世界に住む人たちにも届かねばなりませんし、すべての人がついに仏となるまで責任をもって導いてゆくとうのですから、仏としての寿命も永遠でなければならぬのです。

アミダ仏は、昔々、世自在王仏という仏さまがいらっしやった時代に、法蔵という名の修行僧でした。

世自在王仏は法蔵にたずねました。

君はどういう仏になりたいか。どうい

世界 仏国王を建設したいのか」

それに対して、法蔵は「アミダ仏という、すべての人々を限りない光で包みこんで、どこまでも養い育てつつける仏になりたいです」と答え、そのために、私は極楽浄土という世界を建立して、そこに出来るだけ多くの人を集めたいと思います。

私たちが今住んでいるこの世界では、いのは素直に育っていきません。

ねじ曲がり、押さえこまれて、逆の暗黒の方向に進んでいってしまういのちさえありません。

そんなことがない、その世界に住むだけでのちが素直になり、本来の道、いのちは成長するように、魂が向上し広がってゆくように出来る。に復帰でき、無理、無駄なし

に自然に成長してゆける。そんな世界環境である極楽浄土を建設したいと思います」と語ります。

「極楽」とは、極めて楽に、自然に、ギクシヤクせずスムーズに、いのちの本道を歩んでゆける』という意味で、浄土』とは、たとえば、そこでは水は純粋に水で、色や味がついていない、汚濁がない、そのままの水なのです。また、白い花は赤い花をうらやむことなく、白い花を純粋に輝かせて咲いているのです。赤い花も自身を白い花と比較することなく、ただ赤い花を咲いているのです。このように、極楽浄土とは、それぞれのいのちが、本来のいのちに自然に立ち返ることが出来る国土』という意味です。

さて、法蔵はこの問答の後、師の世自在王仏に向かって、四十八ヶ条の誓いを立てます
四十八願。

たとえば、第十二願は、私は、世の人々を照らす光源となります。その光が照らす範囲

が有限である間は、私は決して仏となりません」、これは、無量光の誓い』ですね。

次の第十三願は、私は仏となれば、その寿命は永遠となり、いつまでも人々を救済する活動をつづけましょう。もし、仏としての寿命が有限である間は、私は決して仏となりません」、これは、無量寿の誓い』ですね。

そして、浄土の教えで一番重要だとされるのは第十八願です。これは、たとえ一瞬でも私に心を向け、私が住む浄土に自分も行きたいと願った人がいて、その内の一人でも浄土に行けないという人がいる間は、私は決して仏となりません』という誓いです。

そういう誓いを立てた法蔵さんが、もうすでにアミダ仏という仏さまになってしまっていますね。

これはどういうことかというと、この第十八願がすでに成就して、たとえ一瞬でもアミダ浄土に行きたいと思った人は、必ず行けるという仕組み、行きたいと願う人に、極楽浄

土のアミダ様が心のゴムひもをグッと伸ばしてくっ付ける。そして、その心のゴムひもの弾力で自ずと浄土まで引き寄せられてしまうという仕組みが完成しているということですね。

ですから、そのアミダ様が完成された仕組みを信じて、ただ『南無阿弥陀仏』と称えればいいんだということになるのです。ちなみに、『南無』とは、帰ります、お任せします』という意味で、ですから、『ナムアミダブツ』とは、『アミダ様のもとに帰ります。アミダ様のお力を信頼し、お任せして』という意味なのです。

そういうことですから、ナムアミダブツのお念仏は何回称えなければならないということもないのです。

ただの一遍の念仏であっても、それが誠心からの念仏であれば、必ずアミダ様は自身の心のゴムひもをその人の誠の心にくっつけて下さるのです。

逆に、年千回、何万回とお念仏して、数の力、自分の力で浄土に行こうとしても、極楽浄土には決して行けないんだといっています。

そういう念仏を『自力念仏』といつて、その場合は、『懈慢界』という世界に到着してしまふのです。

『懈』とは、『疑う』という意味、つまり、阿弥陀様の作られた仕組みを疑って、それによって自分の努力が加わらねば極楽に行けないのではと疑ってしまうのです。それで念仏の回数に頼ろうとするのです。

『懈』とは、『高慢』のことで、自分の無力さを骨身に徹して知ることがなく、自らの力量に慢心して、『アミダ仏』という『他力』に一切お任せしてしまうことが出来ないのです。そういう人は、『懈慢界』に到着して、そこから五百年間出て来れないといっています。

最後に誤解してほしくないのは、この極楽浄土はいのちの最終ゴールではありません。あくまで、ここはいびつになつたいのちを

本復させ、傷ついて、ねじ曲つたいのちを癒し、再びいのち本来の向上進化の本能をわき出せるようにするための施設なのです。健康をとりもどしたいのちは、自然と極楽浄土から出てゆくこととなります。

ですから、『往相、還相』という言葉があります。

『往相』とは、極楽浄土へ導かれて往く姿で、『還相』とは、浄土でいのちの結ばれをほどこいて、素直さ、成長への期待と喜びの本能をとりもどしたいのちが再びシャバ世界、私たちが今、現に住んでいる世界にもどってくる姿です。

そうして、今度はこのシャバ世界に極楽浄土をつくるべく、活動を開始するのです。ネクストステージの法蔵となつて・・・。

詩のよさなもの

私はどうも整理がにが手で、これまで書いた文章も、どんどん積んでおくだけで目付

も入れず分類もしていないのですが、結構大量になって、よくこんなに書いたものだと感心します、あちこちに散らばって堆積しているものをゴールデンウィーク中に探っているうちに、詩集の草稿のようなものを発見しました。今回はその一部を紹介します。すこし気分が変わっていいのでは・・・。

すべてのものに

いのちがある

存在がいのちだから

すべてのものが

語っている

存在は語りだから

解説

『のち』とは、意の盡、集中のことなので、

たとえば、目の前の鉛筆一本にしても、

最初にエンピツをアイデアした人の意志、

次々改良していった人の意識、木材加工した

人の意識、芯をつくった人の意識等々が集合して、ここに形あるものとして存在しているのです。

あなたのいのちもそうです。細かくみてゆくと、過去のあらゆる人やモノの意識、現在の宇宙のすべての存在の意識が結集して、今、ここにあなたといふいのちを必要なものとしてつくり出しているのです。

そして、今度は逆にみると、あなたという

存在が全宇宙、全時間のネットワークによって形成されているように、あなたという存在の意志そのものが、全空間、全時間にユトバとして話されて、放されて、いるのです。

声高に主張しなくても、あなたがしみじみとして、まわりのモノや人とこまやかな光の交流をつづけていけば、あなたは千年先のAさんを救い、勇気づけることにもなるのです。

心配いらん

時来れば芽ぶく

解説

いのちはジャストタイミングを心得ています。あなたがヤキモキする必要はありません。

佳報

寝て待て

いい夢

見ながらね

解説

あせればあせるほど成果が形になるのが遅くなります。時間というものは本当はナイのです。あなたが本当に成功を確信できるようになった時点で、すぐ成果が現われます。

努力なんて

本当はいらない

心をその気にさせるために

必要なだけ

心さえその気になれば

夢はすぐ実現する

解説)

努力というのは、『これだけやっただから大丈夫』と心に思わせる。納得させる。ただに必要なものなのです。はじめから、成功するのはあたり前だ。当然だ』と信じて疑わない人は、思ったことがすぐ現実となるのです。

待つこと

いのが内側から

催してくるまで

待つこと

それがいのちの

誠実である

解説)

ある時、私は 神さまから 神前で拍手を打つことを意味を教えてもらった。

しかし、神前で拍手しなさいという許しが頂けないので、神前でただ合掌して礼拝してお祈りしている。必要な時に必要な作法を指示されるので分かってはいるから。

日蓮さんは富士登山で五合目までしか登れなかった。五合目に庵居して、神霊の許しを待っておられたが、ついに許しが降りず、そのまま下山された。日蓮さんはそういう誠実な方であったのだ。

日蓮さんの子孫を自称しながら、神霊の許しもないのに本を書き、信徒をあつめ、政治にすら介入しようとする。そんな神霊界の暴走族がいます。はずかしいことですね。

静かにあたためていること
見つめる鍋は煮えない」
これは西洋のコトワザ
小魚を煮る要領で」
これは老子の言葉

静かにあたためていること

見つめる鍋は煮えない」

これは西洋のコトワザ

小魚を煮る要領で」

これは老子の言葉

解説)

小魚を煮る時、あまり箸でつついていると、魚がボロボロにくずれてしまいます。

目標を定めたなら、次は目標を忘れて、心のゴムひもの力を信頼して、ただ日常に次々やってくる課題を大切にはたしてゆけばいいの

です。気が付けばゴールは目の前に近づいていておどろくでしょう。

輝身かがみにしあれば

諸共に

神遊かみあそびびせん

高天原たかまがはらに

解説)

『官身くわんしん神鳴り』ですね。自分が自分におちつけば、官身くわんしん神なり』です。外に求むるなかれ。

高天原は今・ココにあり。

シヤカも

イエスも

ぶつとばし

オレはオレだと

駆け抜けよ

解説)

自分が自分というのちである。これ以上

に尊いものは、宇宙広しといえど存在しませ
ん。

『ここにもいる人』 つて

すばらしい

山も川も A 君も

みんなみんな

その人なんだから

『普通の人』 つて

すばらしい

『普くいのちが

通じあう

時を超え

空間を越えて

みんなと

いのちが通じあう

そんな人なんだから

解説)

道元さんのコトバ 群を抜けて 抜群 特

別な能力を持つ人であること) も益はない。

動くのも、止まるのも皆と一縮、でも一生享
びつづけてゆく、どこまでも進んでゆくと
いう決意だけはゆるがない。そんな普通の
人、あたり前の人こそ尊い方である』

『

手放した

力で浮かぶ

蛙かな

解説)

イエスでも、シヤカでも、孔子さんでも、

悩む時はや、つぱり悩む。でも、最後の最後に

思い切つて、パッと手放して、一切をお任せし

てしまうことができる。そこだけがちがうの

です。

べそかいた

仏さまもいらつしやる

すゝ転んだ

仏さまもいらつしやる

解説)

なやんだり、病気したり、なみだを流した
り、そんな自分も許せるから、人も許せるの
です。どんな自分も他の人やモノもそっくり
そのまま受け取つて、つつみこんでゆけるの
が仏さまです。

『

夢に高貴な女性が現われて

あなたは何も出来ない人ね。

だから、何でも出来るのよ』

解説)

私が教頭に任命された時、校長が言われた

コトバ。

立花先生は、とりたてて何が出来るとい

うことはないんだけど、ただそこに居るだ

けで、ほかの先生たちが落ち着くので、何も

しなくていいから、ただ教頭という席に居て

下さい』

マンスリーメッセージ

にがて手なことに

懸命に挑戦していれば

人生、間違いない

得意なことばかり

送んでやっていても

魂の成長は

ラッともないのだから

大敬先生プロフィール

※昭和二十三年大阪生まれ。

※大阪大学にて生物工学を研究。

※十九歳 夫学在学中 禅に入門。

以後、曹洞、臨済宗の諸老師に指導を受けてきた。

※四十二歳 天命を知る。

※四十八歳 『あわせ通信』を開始。

著述、講演活動を展開中。

※四十九歳 元氣アップ禅の会で

禅を通しての指導を始める。

※著書に

『心はゴムひも』 神様の壺

『天生飛行術』 『冊まるごと』

『大敬さん』 『ひとついのち』

『羽日様の教え』 『楽々いのち』

『花咲か人生』 『夫宇宙合格！』

以上、本心庵

『天界の禪者大いに語る』 『悟り』

『禅』 『禅の達人達』

以上、潮分社

現在 福岡県在住、高校教頭

元氣アップ禅の会 今後の開催予定

※第152回元氣アップ禅の会

日時 平成22年6月20日 日 日

※第153回元氣アップ禅の会

日時 平成22年7月11日 日

午前九時四十五分〜正午

場所 菅原神社 菅原会館2階

小倉北区古船場一六

※参加費 千円

日程は変更になる場合があります。

参加の際には、事務局まで日程の

ご確認をお願いします。

※事務局

北九州市若松区二高五丁目

四十七 榮屋内

元氣アップ禅の会 古賀 美和子

電話 093・791・0863

FAX 093・791・0705

Eメール

saketoutawa@ymt.big.jp